

令和8年度 CLT活用建築物等実証事業 二次募集 採択者一覧

番号 (都道府県順)	応募者名 (建築主等)	応募者名 (協議会運営者)	応募事業名	実証の種類	CLTの主な使用方法	実証する内容	RC造、S造等他工法との比較にかかる提案	建設地	建築物概要	担当者氏名
1	泉建設工業株式会社 代表取締役 川崎 潤明	株式会社響建設 代表取締役社長 丁野 敏明	(仮称) 泉建設工業事務所新築工事の設計実証	設計	構造体	津波浸水想定区域(高知県南国市)において、1階・避難階段をRC造、2～3階主要部をCLT非耐力壁とした混構造事務所を建設し、異種構造間の接合技術・工程・コストを検証する。沿岸地域の非住宅建築へのCLT普及モデルを確立することを目的とする。	全RC造・本混構造との費用比較を実施する。具体的には、同規模・同用途の建物を全RC造・本混構造で各々積算し、工事費・工期・維持管理コストの3軸で比較する。将来予測として、CLT材の供給安定化・単価低減傾向を踏まえ、混構造の経済的優位性が今後拡大する可能性を定量的に示す。	高知県 南国市	用途: 事務所 構造: 木造一部RC造 階数: 3 延べ面積: 624.38㎡ 工事種別: 新築 竣工予定: 令和10年2月29日予定	株式会社響建設 宮田 直樹
2	学校法人 鶏鳴学園 理事長 横井司朗	学校法人 鶏鳴学園 理事長 横井司朗	(仮称)「湖山校舎」新築工事 ～地方創世を担う木造校舎～	標準化	構造体	・設計実証で提案した地域流通木材の大断面製材の確保や天然乾燥・コスト抑制を図るための【木材先行発注】の調達・管理・施工のスキームをデータ化し、幅広く共有を図る。 ・CLT36に対する木質構造用ねじの実験データは一例のみである。より少ない本数や川の字打ちの仕様などに展開し、施工・経済・意匠性を向上させる。	他工法における類似の用途、同規模の建築を比較すると、本事業で実証する木造建築は杭工事の必要性がなく、基礎構造の工期・コスト面の優位性が考えられる。RC造で建築した場合の総コスト、工期、人件費を試算・比較するとともに、本事業で実践した木材先行発注に関する作業工程スケジュールやコスト比較をデータ化し、幅広い共有を心がける。	鳥取県 鳥取市	用途: 中学校・高等学校 構造: 在来軸組工法 階数: 1 延べ面積: 2295.20㎡ 工事種別: 新築 竣工予定: 令和10年7月31日予定	よろい環境計画事務所 代表 萬井 博行

※番号2の採択事業については、複数年度にわたって複数の課題の実証を実施する。